



校内に展示された受賞作品の「中務集」と。

筆と紙の間にある、
緻密な世界で。

Cradle
高校生編集部が行く
スゴハイ 10
SUGOI high school students in Shonai

Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁



取 材 テ ー マ

まっすぐに 表現と向き合う 高校生

学校生活の中で誰もが経験する、書道と合唱。
その魅力に心をつかまれ、
どこまでも表現を追求することを楽しみ、
全国の舞台上で活躍する高校生たちがいます。

酒田西高等学校 書道部
阿部綾乃さん

高校生の夏。多くの人はこの言葉から、甲子園やインターハイなど、汗を流し躍動する10代の姿をイメージするだろう。しかし、暑い夏は運動部だけのものではない。芸術文化活動に取り組む全国の高校生が集い、表現力を競い交流を深め合う、「全国高校総合文化祭」。

今年宮城県で、7月31日から5日間にわたり開催された。書道部門に作品を出展し、朝日新聞社賞・奨励賞を受賞した酒田西高校書道部の3年生、阿部綾乃さんにお話を伺った。
「番号と名前が呼ばれても実感がなくて、最初は信じられませんでしたね」。受賞の瞬間をこう振り返りながら、阿部さんは作品を見せてくれた。平安時代中期の女流



流れるような美しさは、時間をかけ丁寧に向き合うからこそ生まれる。

に何も考えていないんです。自然に集中していて、気がつくときごく時間がたっていますね」と話す。それでも、書き終わったものを見て満足できることはほとんどなく、「次はもっといいものを」と、また書きたくなるそうだ。「締め切り直前に自分の字が書けなくなったり時期があったんですが、いいものを書きたい一心でなんとか乗り切ることができました。諦めず、よりいいものを目指す気持ちは、書道を通じて身につけたものだと思います」。

最後に、今後の書道との付き合い方について聞くと、「本格的にはやらなくなると思います」と阿部さん。「でも離れたら、すぐにまた書きたくなるかもしれませんね」と、少し照れながら付け加えた。彼女と書道とのいい関係は、これからもきつと続いていくだろう。



「長くて大変でしたが、なんとか書き終えることができてほっとしました」。

歌人・中務の歌を集めた『中務集』を書いた、かな文字の長い作品だ。流れるような曲線から成る文字は、感性に任せて自由に書かれたように見えるが、実際はそうではない。お手本をしっかりと読み込み忠実に再現することが、阿部さんの一番のこだわりだ。「お手本に墨がかすれているところがあれば、わざと墨を落としてかすれさせたり、文字の形はもちろん、墨の濃淡まで表現するように心がけています。そうすることで、小さなかな文字にも奥行きが出て、離れて見ても文字の形がよくわかる作品になるんです」。

『中務集』との出会いは、高校1年時の総文祭。その年の10月から今年の春まで、約1年半にわたって書き続け技を磨いてきた阿部さん。どのような気持ちで、この大作と向き合ってきたのだろう。「書いているときは必死で、本当



みなさんが都立館をしている中での取材です。



取材を担当した酒田東高校文芸部のみなさん



3人でがんばります！

りりか

最近で見学させてもらいました。



どうしたら、字がうまくなりますか？

鶴岡北高等学校 音楽部のみなさん

NHK全国学校音楽コンクール（以下、Nコン）、全日本合唱コンクール。合唱をやっている高校生なら誰もが憧れる2大コンクールにおいて、2年連続で全国大会の出場権を獲得し、Nコンでは昨年度金賞（全国1位）、今年度銀賞（全国2位）を受賞した、鶴岡北高校音楽部。その強さの秘密を探るため、10月末の全日本合唱コンクールに向けて練習を重ねる音楽部を訪ねた。

練習場所に到着すると、ちょうど模試を終えた3年生が合流し全体練習が始まった。短く区切ったフレーズを、発声法はもちろん、口の開き方や表情なども確認しながら歌うかたちで、練習は進んでいった。顧問の先生の指導のもと、歌うたびに響きがどんどん美しく豊かになっていく様子は圧巻であった。「みんなで歌詞の解釈をしたり、歌に出てくる情景を映像で見たりして、歌への理解を深め

最高の響きで、 たくさんの人に感動を。

ることも大切にしています」と話すのは、部長を務める3年生の佐藤亜美さん。「毎年の定期演奏会でミュージカルを演じていることも、表現力の向上につながっていると思います。」「振りをつけて歌



部長の佐藤亜美さん、副部長の齋藤朱莉さん。

うこともあるんですが、歌の世界観をつくりあげるためには欠かれない練習になっています」と、同じく3年生で副部長を務める齋藤朱莉さんが続ける。さまざまな角度から歌を見つめ、得られたヒントを演奏へと生かす姿勢が、彼女たちの豊かな表現力を支えているのだ。

取材当日のように模試があったり、早い学校はもう入試が始まっていたり、3年生は授業も忙しい時期だ。合唱との両立はなかなか大変なはずだが、「やっぱり合唱は楽しい」と描って笑顔を見せる。「部員全員、42人の声がびたっと合

う瞬間があつて、その響きがすごく心地いいんですね。歌っていないあつて改めて思います」と佐藤さん。「最初はできなかったことが、試行錯誤しながら練習を重ねることで、できるようになる。その喜びをみんなで分かち合えるのが、合唱の一番のおもしろさです」と齋藤さんは言う。

「結果は演奏についてくるものだと思うので、本番まであとわずかですが、いい演奏、感動を届けられる演奏を追求したいと思います」。高校生最後のコンクールに向けた佐藤さんの想いに、齋藤さんも深く頷いた。美しい「鶴北サウンド」が会場中を感動に包み込む日は、すぐそこまでやって来ている。



編集後記

どんなお話を聞くことができるのか楽しみにしながら質問を考え、取材に臨みました。書道に対する姿勢や想いの深さを感じるお話は、深く心に響きました。実際に見せていただいた作品は、努力のしみ出た素晴らしいものでした。初めての取材でしたが、とても貴重で発見の多い時間に行うことができました。(りりか)

鶴岡北高校音楽部のみなさんの、部としての目標を決め、その達成のためには妥協しないという精神は本当に素晴らしいと思いました。そして、一人ひとりが曲のイメージを広げ、役になりきりながら歌う練習をしていることに驚くとともに、こうした日々の努力が素晴らしい歌声につながっているのだと感じました。(かのん)

編集部員&特ダネ まだまだ募集中!

「スゴハイ」の企画制作をやってみた高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先

Cradle事務局
info@cradle-ds.jp

編集・文=Cradle高校生編集部、工藤 拓也
写真=間 真由美
協力=酒田西高等学校、鶴岡北高等学校
酒田高等学校、酒田光陵高等学校



保護者やOGさん、
たくさんの応援を
サポーターさんへ
送りたい。

みなさん
ものすごく
集中力でした。



よろしく
お願いしまーす!
かのん

NEW FACE

取材を担当した
酒田光陵高校
生徒会広報委員会のみなさん



「部活動を通して、礼儀やコミュニケーションの仕方なども学ぶことができます」。



限られた練習時間を有効に使うため、移動などすべての動きがテキパキしていた。